

## ブドウ‘由布’のジベレリン処理による無核化

小関洋介・平山好見・吉田智也・芝田展幸 (大分県農業技術センター)

Yosuke OZEKI, Yoshimi HIRAYAMA, Tomoya YOSHIDA and Nobuyuki SHIBATA : Modification of Gibberellin Treatment for Producing Seedless Berries of Grape Cultivar, 'Yufu'

ブドウ由布はマスカットベリー-Aの一樹変異体で1986年に品種登録された。マスカットベリー-Aに比較して、果粒が大きく、収穫期が10～14日早い。ジベレリン処理による無核化技術が十分確立されていないため、無核化についてのジベレリンの処理法を検討した。

## 1. 材料及び方法

1) 1988年に4年生由布を供試し、ジベレリン処理濃度を25ppm, 50ppm, 100ppmの3区を設け、5月27日に1区につき10果房の浸漬処理を行った。供試樹の満開日は6月4日で、後期処理は6月23日にジベレリン100ppmで行った。

2) 1989年に前年の供試樹を用いて、5月17日, 20日, 23日, 27日, 29日にジベレリン100ppmを、5月17日, 23日, 29日にストレプトマイシン200ppm加用ジベレリン100ppmを1区につき10果房の浸漬処理を行った。供試樹の満開日は5月30日で、後期処理は6月9日にジベレリン100ppmで行った。

## 2. 結果及び考察

1) ジベレリン処理濃度は、第1表に示すように100ppm処理が無核果率94.2%と25ppm, 50ppmに比べ明らかに高く、果実品質(屈折計示度, 酸含量)は処理濃度間の差は認められなかった。

2) ジベレリン処理時期は、第2表に示すように満開3日前が無核果率92.9%、満開1日前が無核果率93.6%と高く、満開10日前, 13日前になると68.6%, 61.6%と極端に低くなった。その他の果実品質は処理時期の違いによる影響は認められなかった。

3) ストレプトマイシンの加用により、各処理時期ともに無核果率は明らかに高くなったが、果粒重が1～2g小さくなった。

以上の結果、ブドウ由布に対する無核化のためのジベレリン処理濃度は100ppm, 時期は満開1～3日前が効果が高いことが明らかとなった。ストレプトマイシンを加用することにより、ジベレリン単用よりも無核化が増進されることが明らかとなったが、果粒肥大が劣ることから、処理方法等についてさらに検討が必要である。

第1表 由布の無核化に及ぼすジベレリン処理濃度の影響

(1988年)

処理濃度	1房粒重 (g/房)	粒数 (個/房)	1粒重 (g)	裂果率 (%)	無核果率 (%)	屈折計示度 (Brix)	酸含量 <sup>a)</sup> (%)
25ppm	262	29.8	8.8	11.4	46.3	17.1	0.54
50ppm	329	36.1	9.1	47.9	64.0	16.7	0.56
100ppm	228	27.4	8.3	58.8	94.2	17.3	0.49

注) a) 酸は酒石酸含量に換算

第2表 由布の無核化に及ぼすジベレリン処理時期及びストレプトマイシン加用の影響

(1989年)

処理薬剤	処理時期	1房粒重 (g/房)	粒数 (個/房)	1粒重 (g)	裂果率 (%)	無核果率 (%)	屈折計示度 (Brix)	酸含量 (%)
ジベレリン 単用処理	満開13日前	481	50.9	9.5	8.9	61.6	16.9	0.46
	満開10日前	505	47.7	10.6	10.0	68.6	16.3	0.46
	満開7日前	521	48.7	10.7	8.3	85.0	16.4	0.46
	満開3日前	610	54.7	11.2	4.1	92.9	16.3	0.48
	満開1日前	579	55.6	10.4	6.3	93.6	16.4	0.53
ストマイ加用 ジベレリン処理	満開13日前	417	48.6	8.6	7.1	84.3	16.9	0.45
	満開7日前	504	57.4	8.8	10.4	96.5	16.5	0.46
	満開1日前	518	60.0	8.7	5.4	96.4	16.2	0.47